

## 社長業のその後

第2期OB 梶山 啓介

2008年12月にエッジコネクションとしての2期目が無事終わりました。立ち上げ当初は2名だったメンバーも、今では社員7名とアルバイト3名と10名まで増え、仕事場も立ち上げ当初のアパートの一室から、靴を脱がずに仕事できるオフィスらしい所に移転することが出来ました。そういった意味では、「生きる」ために必死に毎日进行していた時代が終わり、組織としてどう大きくなっていかなければならないのかという所へ進んでいるのかもかもしれません。

2007年1月、私は今思えば本当に恐ろしいぐらい、勢いだけで会社を立ち上げました。精密なビジネスモデルも潤沢な資金もあるわけではなく、ただ仲間と共にそのタイミングがすべてだと考え決断をしました。そして、勢いそのままに色々な人に出会い、仕事を探し、その中でさまざまな知識をつけ、なんとかビジネスとしての原型を作りあげてきた気がします。ただし、「勢い」だけで社会に存続できるほど、世の中は甘くありません。ここから先はベンチャーとしての「勢い」を残しながらも、エッジコネクションとして世の中に通用する「らしさ」が必要になります。

私は、エッジコネクションの「らしさ」とは社員の能力であり、社員一人一人の能力を高めるために重要なことは素直さだと考えています。素直であるということは、言うのは簡単だが、実行するのが非常に難しいことです。それは人間が持つプライド、自我が邪魔をしているからだと思います。プライドがあるから素直に人に聞けない、自分の弱みを見せると馬鹿にされるのが怖いから本音を言えない。だけど本来素直であれば、わからないことも早く人から聞け、弱みを見せることで本当の信頼関係をきづくことが出来るようになります。そしてその結果として、自分の弱いところを周りの信頼関係で補完できるようになり、より一層自分の長所を伸ばすことに専念できます。

かくいう私自身も素直な人間ではありませんでした。自分は社長であるということから、自らが一番偉くなければいけないとか、一番お金を稼がなければいけないという勝手なプライドが存在し、素直に周りの人間にわからないことを聞いたり、弱みを見せることを避けていました。しかしながら、社長だからというこのプライドは会社を大きくしていく上で一切役立ちません。一人でも多く自分よりも優秀な人間が私を社長と慕ってくれる会社を創るためには、社長自ら素直であると同時に誰にも負けない「らしさ」を持っている必要があります。そして、小野晃典研究会の発展に負けないう、エッジコネクションの代表として日々尽力し、自分らしさ、エッジコネクションらしさを磨きあげていきたいと考えています。



社員旅行で行ったキャニオリング